

待^{とく}權^{けん} 德^{とく}行^{かう} 咄^{とつ}嗟^さ 突^{とつ}飛^び 突^{とつ}然^{ぜん} 突^{とつ}士^し手^て(堤^堤) 誦^{とつ}辯^{べん} 途^{とつ}轍^{ちやく} 徒^{とつ}弟^{てい} 滯^{とつ}留^{りゅう} 途^{とつ}方^{ほう} 唱^{とつ}(稱^稱)ふ 怒^ど鳴^なる 隣^{りん} 賭^ど博^{ぱく} 途^{とつ}方^{ほう} 恍^{とつ}然^{ぜん} 點^{とつ}す(火^火を)

實業書翰用語

勸誘 貿易會社に入社を勧む

貿易會社に入社を勧む

過^{くわ}般^{はん}御^{おん}尊^{そん}申^{しん}上^{じやう}置^ち候^{こう}貿^{ぼう}易^{えき}會^{かい}社^{しゃ}は、今^{こん}回^{かい}彌^い々^々設^{せつ}立^{りつ}の認^{にん}可^かを^を得^え候^{こう}趣^そ發^{はつ}起^き人^{にん}より通^{つう}牒^{てつ}有^あ之^し、且^{かつ}其^{その}營^{えい}業^{ぎやう}の目^{もく}的^{てき}は最^{さい}初^{しよ}とは少^{すこ}しく變^{へん}更^{かう}し、重^{おも}に支^し那^な朝^{てう}鮮^{せん}地^ち方^{ほう}へ雜^{ざつ}貨^{くわ}を輸^ゆ出^{しゆつ}する方^{ほう}針^{しん}の由^{よし}にて、其^{その}輸^ゆ出^{しゆつ}物^{ぶつ}は總^{すべ}て株^{かぶ}主^{ぬし}中^{ちゆう}より募^{もつ}るの趣^{しゆかう}向^{かう}と承^{うけたまは}り候^候。されば從^{じゆう}來^{らい}輸^ゆ出^{しゆつ}を謀^{はか}らんとすも小^{せう}資^し本^{ほん}にて意^いを果^{はた}さる等^{とう}の人は、該^{がい}社^{しゃ}の株^{かぶ}主^{ぬし}となり物^{ぶつ}品^{びん}を委^い托^{たく}仕^し候^候は極^{きは}めて便^{べん}益^{えき}と愚^ぐ考^{かう}仕^し候^候。然^{しか}れ共^{ども}凡^{おほ}そ會^{かい}社^{しゃ}の盛^{せい}衰^{すい}は方^{ほう}法^{ぽう}の良^{りやう}否^ひより、役^{やく}員^{いん}の如^い

泊^{とつ} 用^{ちゆう} 取^{とつ}返^{へん}す 取^{とつ}得^{とく}(長^{ちやう}所^{じよ}) 取^{とつ}替^か(交^{かう}換^{かん}) 取^{とつ}沙^さ汰^た 取^{とつ}計^{けい}(處^{ちよ}分^{ぶん}) 取^{とつ}控^{かう}ぐ 取^{とつ}交^{かう} 取^{とつ}締^{てい} 取^{とつ}次^じ 取^{とつ}調^{てう} 取^{とつ}計^{けい}(處^{ちよ}分^{ぶん}) 取^{とつ}控^{かう}ぐ 取^{とつ}交^{かう} 取^{とつ}返^{へん}す 取^{とつ}得^{とく}(長^{ちやう}所^{じよ}) 取^{とつ}替^か(交^{かう}換^{かん}) 取^{とつ}沙^さ汰^た 取^{とつ}計^{けい}(處^{ちよ}分^{ぶん}) 取^{とつ}控^{かう}ぐ 取^{とつ}交^{かう} 取^{とつ}締^{てい} 取^{とつ}次^じ 取^{とつ}調^{てう} 取^{とつ}計^{けい}(處^{ちよ}分^{ぶん}) 取^{とつ}控^{かう}ぐ 取^{とつ}交^{かう}

實業書翰用語

請負入札合同の勸誘

何^{なん}に由^{よし}る事^{こと}に候^候へば、該^{がい}社^{しゃ}の如^{ごと}きも方^{ほう}法^{ぽう}に於^おては間^{かん}然^{ぜん}する處^{ところ}なきも、役^{やく}員^{いん}の如^{ごと}かに於^おて少^{すこ}く躊^{ちゆう}躇^{ちよ}仕^し居^い候^候處^{ところ}、老^{らう}練^{れん}なる何^{なん}某^{がし}氏^し何^{なん}某^{がし}氏^し等^{とう}社^{しゃ}長^{ちやう}以^い下^かの候^{こう}補^ほ者^{しや}に備^{そな}はり居^いり候^候へば、該^{がい}社^{しゃ}の目^{もく}的^{てき}は必^{ひつ}定^{てい}成^{じやう}立^{りつ}可^か致^ちと被^ま存^{ぞん}候^候に付^つ、此^{この}際^{さい}御^{おん}入^に社^{しゃ}の義^ぎ御^ご勸^{かん}誘^{いゆう}申^{しん}上^{じやう}候^候。

今^{こん}回^{かい}何^{なん}官^{くわん}衙^がに於^おて何^{なん}々^々の請^{うけ}負^{おひ}入^に札^{さつ}可^か有^あ之^しに付^つ、過^{くわ}般^{はん}來^{らい}自^じ身^{しん}出^{しゆつ}張^{ちやう}の上^{うへ}契^{けい}約^{やく}事^じ項^{きやう}及^{およ}び何^{なん}々^々等^{とう}夫^ふ々^々取^と調^{てう}べ候^候處^{ところ}隨^ず分^{ぶん}面^{めん}白^{はく}き利^り益^{えき}の見^み込^こ相^あ立^り候^候に付^つ、是^ぜ非^ひ共^{ども}落^{らく}札^{さつ}請^{うけ}負^{おひ}

勸誘 請負入札合同の勸誘

實業書翰用語

軟化 難儀 難澁 難題 難破 難問
 何條 難 難 難 難 難
 喃々 難 難 難 難 難
 難派 難 難 難 難 難
 荷足 似合敷
 句ひ 臭ひ
 荷嵩 苦々數
 握る 眠し
 逃(遁)る 憎(惡)む
 荷拵 濁る

實業書翰用語

浸染(滲)む 晒る
 賈物 日動
 日給 荷主
 擔(荷)ふ 荷物
 鈍る 荷和
 柔弱 柔寄
 饒舌 似煮
 睨(白眼)合 似煮
 宵る 似煮
 低(遠) 任意
 認可 任官
 任期 任官

勸誘 旅中の店員へ注意を與ふ

聲價に關し、前途多望の販路をして空敷雍塞せしむるの不幸に陥る義と存候に付能々御吟味被成候方可然と存せられ候間、失禮を願ず氣附し儘御注意申上候次第に御座候。

旅中の店員へ注意を與ふ

旅中何の御障も無之候哉、店方一同無事に候間御休神可被下候。儲其後豫定通り何品の仕入方萬端相整ひ候事と被存候、然る處目下何々殊の外流行の兆有之に候付、何品仕入の節其合にて御撰擇相成様被致

度候。猶申上候迄も無之候得共、目下店方手不足の際に候へば、精々取急ぎ歸店相成度候。

電信文不明に付注意を促す

先刻は何銀行支拂停止云々の儀電報被下、御手数奉謝候。右電文は餘りに簡畧に過ぎ意味明瞭ならず候に付、直に不明再答の打合せ致し始めて了解致候。元來電文は簡明にして費用を省く事を尊び候得共、斯の如き重大の關係ある事件に至つては、一字を誤解するも容易ならざる錯誤を生ずる事有之候故、些

勸誘 電信文不明に付注意を促す

拜配 拜背 拜背 配 廢 廢 排 賄 拜
 命分 復叛 呈馳 達類 絶斥 償
 培敗 廢配 配 拜配 拜 胚排 拜 拜
 養亡 物布 當聽 置戴 胎泄 趨承

實業書翰用語

紹介 職工を周旋す

過般何々職工御雇ひ相成度趣御話有之候に依り其
 後心に留め置き候處。今回某工場に勤務致居候者都
 合上他に轉じ度由にて、然るべき處へ周旋方依頼被
 致候に付ては、貴工場に於て御使用如何に候哉。性
 質は温和にして正直の者に有之候。先は右御伺迄。

職工を周旋す

は、及ばず乍ら小生保證可仕候。猶必ずしも同社の
 みに限らず、随分と諸種の會社に御關係廣ければ、
 何れなりとも御採用の榮を得度此段奉願候。

輩 拜配 拜 徵 賣 拜 高 拜 場
 出 借 合 啓 齒 却 顔 襟 賀 合
 排 媒 廢 拜 配 廢 廢 拜 俳 拜
 出 酌 止 見 過 業 棄 觀 徊 謁

實業書翰用語

紹介 技術家を推舉す

下度、小生同行御紹介可仕候。先は御推薦迄斯の如
 くに御座候。

技術家を推舉す

此度御設立相成候何々會社に、自然何々技術家御入
 用には候はずや。餘り唐突の様には候得共、實は何
 々學校卒業の士にして十分信用ある者有之、本人も
 内々御伺ひ申し呉れずやと申居候間、乍御手数數御都
 合御洩し被下度、御採用の運に至り候は、此上なき
 仕合と存候。尤も本人の性行其他身分全體に關して

幅(巾) 鏡 離 罵 波 發 拔 發 發 末 孫
る 倒 瀾 揚 錨 布 寶 擢 達 孫
話(咄、噺) 波 末 發 發 法 法 發 發
放(縱) 動 業 明 表 被 度 着 兌
憚 跳 憚 跳 憚 跳 憚 跳 憚 跳 憚 跳
る る る る る る る る る る る る

實業書翰用語註

破 罵 梁 勝 暴(颶)風 早(速、疾、迅) 流行る 破 破 羽二重 破(摺)風 沮む
裂 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言 言
驢 遙 玻 波 孕(妊)む 早 離 破 嵌 省 憂
物 物 物 物 物 物 物 物 物 物 物 物

實業書翰用語

紹介 旅店へ知人を紹介す

算に堪能に、事を慮するに機敏にして且緻密に候間、
何卒一應人物御試しの上貴意に相適ひ候はゞ本懐の
至り、若又貴店に於て御入用無之候はゞ可然方へ御
引合被下度、依て同人自筆の履歴書相添御紹介旁々
御依頼申上候。

旅店へ知人を紹介す

此書狀持參の何某氏は當地有數の商業家にて、小生
多年の懇親に有之候處、今回商用の爲貴地へ參られ
により、貴館へ宿泊被爲候様申上置候。就て同氏は

貴地は初旅にて萬事不案内に候事故、何卒宜敷御都
合御圖り被下度、御紹介旁御依頼申入候。

招待

開店祝宴に招待

謹啓。尊堂愈御清福の段奉大賀候。陳者弊店義
幸にも諸君の深厚なる御心添に依り、今般本市何
町何番地へ新築落成の上開業の運に立至り、難有仕
合に存じ奉り候。就ては聊開店の祝として粗酒一

招待 開店祝宴に招待

實業書翰用語

破廉耻 拂(掃)擻(ふ) 麵(めん)包(ぱう) 繁(はん)華(わ) 繁(はん)榮(えい) 反(はん)應(えい) 挽(わん)回(かい) 半(はん)可(か)通(つう) 半(はん)間(かん) 輓(わん)近(きん) 判(はん)決(けつ) 半(はん)減(げん) 版(はん)行(かう) 反(はん)證(てい) 昌(しょう) 號(ごう) 抗(かう) 禮(れい) 刻(けき) 響(きやう) 間(かん) 額(がく) 華(わ) 榮(えい) 繁(はん) 反(はん) 反(はん) 版(はん) 繁(はん) 反(はん) 判(はん) 輓(わん) 半(はん) 半(はん) 挽(わん) 反(はん) 範(はん) 麵(めん) 包(ぱう)

工場開業式に招待

愈(い)々(よく)御(ご)清(せい)榮(えい)大(だい)賀(が)此(この)事(こと)に候(こう)。陳(の)者(よ)先(ま)般(ぱん)來(らい)增(ぞう)築(じく)着(ちやく)手(て)罷(罷)。在(あ)り候(こう)弊(へい)工(こう)場(じやう)漸(しん)く此(この)程(ほど)全(ぜん)部(ぶ)の竣(しゆん)工(こう)を告(つ)げ候(こう)に就(つ)ては、明(み)何(なん)日(じつ)午(ご)後(ご)何(なん)時(じ)より當(たう)工(こう)場(じやう)内(ない)に於(お)りて落(らく)成(せい)開(かい)業(ぎやう)式(しき)を舉(きよ)行(かう)し、御(ご)披(ひ)露(ろ)に兼(か)ね平(へい)素(そ)の御(ご)愛(あい)顧(こ)に酬(むく)る度(ど)存(ぞん)候(こう)間(かん)、何(なん)卒(そ)萬(ばん)障(じやう)御(ご)繰(繰)合(あ)御(ご)責(せき)臨(りん)成(せい)被(ひ)下(くだ)度(ど)、尤(も)も席(せき)上(じやう)には餘(よ)

招待 工場開業式に招待

献(けん)差(さ)上(じやう)申(まを)候(こう)間(かん)、御(ご)多(た)忙(ぼう)中(ちゆう)御(ご)迷(まい)惑(わく)とは存(ぞん)候(こう)得(とく)共(ども)、是(ぜ)非(ひ)共(ども)御(ご)繰(繰)合(あ)明(めい)何(なん)日(じつ)午(ご)後(ご)何(なん)時(じ)より何(なん)町(ちゆう)何(なん)々(ざ)樓(ろう)迄(まで)御(ご)光(くわう)來(らい)被(ひ)成(せい)下(くだ)度(ど)、此(この)段(だん)御(ご)案(あん)内(ない)申(まを)上(じやう)候(こう)。

實業書翰用語

判(はん)然(ぜん) 半(はん)信(しん)半(はん)疑(ぎ) 判(はん)然(ぜん) 反(はん)對(たい) 萬(ばん)端(たん) 神(しん)天(てん)(半(はん)纏(てん)) 版(はん)圖(ず) 番(ばん)頭(ず) 須(す)布(ふ) 萬(ばん)福(ふく) 繁(はん)忙(ぼう) 汜(はい)濫(らん) 判(はん)犯(はん) 繁(はん)盛(せい) 判(はん)斷(だん) 則(すなは)ち 途(と)途(と) 半(はん)途(と) 反(はん)動(どう) 販(はん)賣(ばい) 覆(ふく) 別(べつ) 販(はん)米(まい) 路(ろ)

工場開業式招待の返事

興(き)々(よく)と(と)して諸(しよ)種(しゆ)の演(えん)藝(ぎ)、當(たう)工(こう)場(じやう)職(しやく)工(こう)の考(こう)案(あん)意(い)匠(じやう)に成(な)る造(ぞう)物(ぶつ)等(とう)の催(もよほ)しも有(あ)り之(この)候(こう)に由(よし)り、御(ご)家(か)族(ぞく)御(ご)同(どう)伴(ばん)被(ひ)下(くだ)度(ど)此(この)段(だん)御(ご)案(あん)内(ない)申(まを)上(じやう)候(こう)。次(つぎ)に甚(は)だ不(ふ)滿(まん)の次(じ)第(だい)に(て)恐(おそ)れ入(い)り候(こう)得(とく)共(ども)、席(せき)上(じやう)に(て)祝(しゆ)詞(じ)に(て)も給(たま)ひ度(ど)候(こう)。實(じつ)は此(この)事(こと)近(きん)來(らい)一(いつ)般(ぱん)開(かい)業(ぎやう)式(しき)の定(てい)例(れい)と相(あ)成(せい)居(い)り、若(も)し此(この)無(な)け(れ)ば何(なん)や(ら)ら被(ひ)足(た)らぬ心(こゝろ)地(ぢ)被(ひ)致(せい)候(こう)儘(まま)、御(ご)迷(まい)惑(わく)を(も)願(ねが)ひ不(ふ)願(ねが)み入(い)候(こう)次(じ)第(だい)に(て)付(つ)き、御(ご)聽(てい)許(きょ)被(ひ)下(くだ)候(こう)は、光(くわう)榮(えい)之(これ)に過(す)ぎ不(ふ)候(こう)。先(ま)は御(ご)招(しょう)待(たい)を兼(か)ね御(ご)依(い)頼(らい)迄(まで)斯(か)の如(ごと)くに御(ご)座(ざ)候(こう)。

招待 工場開業式招待の返事

實業書翰用語

均(等、齊) 一入 獨 雜形 非(批)難 拈(捻)評 批(評) 皮(膚) 美(風) 微(服) 疲(弊) 非(望) 一(人) 鄙(鄙) 日(日) 皮(皮) 響(響) 被(被) 日(日) 被(被) 惡(惡) 誹(誹) 關(關) 筋(筋) 傳(傳) 肉(肉) 向(向) 布(布) 步(步) 服(服) 憤(憤) 謗(謗) 縫(縫)

挨拶 注文品の錯誤を謝す

候。就て早速取調べ申候處、何は何の誤りにて全く當方の失念に出で、粗漏の段平に御海宥被下度候。依て引紙の通り訂正計算書封入仕候間、不惡思召被下度、先は御詫旁斯の如くに御座候。

注文品の錯誤を謝す

毎々御引立被下厚く御禮申上候。儲去何日附を以て御注文被下候何品の義、昨日取揃へ御發送申上候處只今に至り他店へ送附分と取違へ御注文何個に對し何個送荷致せしことを發見仕候に付、取落しの分何

實業書翰用語

備(備) 隙(間) 秘(密) 非(命) 謬(傳) 日(備) 紙(紙) 評(價) 評(決) 表(示) 病(症) 病(狀) 非(凡) 肥(滿) 微(妙) 罷(免) 費(用) 飛(揚) 病(癩) 永(解) 拍(手) 標(準) 病(床) 評(定)

商機を報せられしを謝す

個は直に速達便に托送仕候間、不惡御承引被下度、先は粗漏御詫旁斯の如くに御座候。
過日は御親切にも態々電報を以て、何品相場變動の前兆御教示被下、御庇蔭を以て商機を失せず多大の損害を免かれ候段厚く御禮申上候。當時の市況は随分活潑にて、小生亦強氣に候へば、萬一御教示に接せず候はば如何なる失敗を招き候やも計り難く、今に至りて之を思へば寒心に堪わざる次第に候。猶此

挨拶 商機を報せられしを謝す

實業書翰用語

敏品 敏便 損便 敏憫 貧品 拾疲
腕評 速船 斥捷 察窮 位ふ 勢

尾籠 天鷲絨 賓客 品行 貧賤 憫笑 憤然 頻繁 勉

挨拶 助力を與へられし人に挨拶

小生開店に付ては一方ならざる御配慮に預り御助力相煩し候結果、以御庇蔭萬端滞り無く相運び、近日開業の運に立ち至り候段難有奉鳴謝候。實は罷り出で親しく状況御報旁々御挨拶可申上筈に候處

助力を與へられし人に挨拶

御逢ひの節は宜敷御禮申上置被下度候。就て甚だ菲薄には候へ共、聊謝意を表するまでに別包小包郵便を以て御送り申上候間、配達の上は御笑納被下度、不取敢御禮迄如斯に御座候。

實業書翰用語

披美 痺比 微閃 開肥 兵糧 評漂 割
露麗 む類 力く 沃(根) 判着 籍

卑卑 比翻 鄙肥 拓(地を) 日評 渺平 表(標) 題
陋劣 例す 吝料 和論 茫等

挨拶 得意先の周旋を謝す

後とても御氣附の廉々は御教示相仰度願ひ奉り候。就ては別包小包の品、甚だ輕少には候得共聊御挨拶の印迄に差上候間御叱留被下度、先は不取敢書中を以て御厚禮申上候。

得意先の周旋を謝す

過日は何地何商店へ御紹介被下、御蔭を以て爾後御用澤山被仰付、且御支拂も至極御几帳面にて誠に御得意と存じ、御厚情の程奉深謝候。以後は一層の勉強を以て長く御愛顧を蒙り度希望に候間、自然

風封風風風風風諷無吹撫不歩
説書邪采景儀諫音聽育意合
風風風調風風富風計讎無不
俗塵習刺候教責雅音異

實業書翰用語

不部浮負布扶風風風風瘋風
快下華荷(敷)術掖浪來聞波瀾潮
不不附賦不不不風風風封風
覺會加課穩縁易流味評筒體

實業書翰用語

挨拶 店員周旋の勞を謝す

開業前として殊の外多忙を極め不得其意、何れ參上可
仕候得共不取敢以書中御禮申述候。尙此後とも御心
附の廉々は御教示に預り度奉願候。

店員周旋の勞を謝す

過般御周旋被下候何某君は、御鑑識に違はず青年に
似氣なく勤勉にして柔和に、應對振など如才無く、
且筆蹟も拙からず計算も中々達者にて、事務の模様
相解り候は、一と廉間に合ひ可申、誠に好人物を得
たりと喜び居候間、漸次相當の待遇を與へ度と存候。

右の次第に付憚り乍ら御省慮被下度、先は御挨拶旁
御通知迄斯の如くに候。

就職を紹介せられしを謝す

過日拜受仕候御紹介状を以て、直接何會社支配人
何某氏に面晤、委曲申述懇々御依頼申入候處、他な
らぬ貴下御紹介の事とて快諾被下、差當り思はしき
缺員無之候も、一時何係へ採用可致とのことにて、
昨日辭令を受け月俸金何圓給與被成候事に相成、昨
日より出勤仕候。淺學短才の身を以て最初より斯く

挨拶 就職を紹介せられしを謝す

幅不不葺附俯普不不不
員郁遇具く近仰及吉羈
服福腹不噴拭不器不不
役音案虞くく量興朽義

實業書翰用語

不可思議 更す
不恰好 深手(重傷)

挨拶 工場縦覽を謝す

優遇を受け候も、全く貴下御紹介の賜物と厚く感謝
奉り候。只此上は忠勤精勵職務に勉勵致し、一面
貴下御紹介の厚恩に背かざらんことを期し可申候間
今後共御見捨なく御指導の程奉祈候。猶社長
竝に重役諸氏に自然御面會の節は宜敷御取繕の程
希望仕候。何れ來る日曜には參館委細可申上候得共
不取敢御禮旁々御通知申上度、如斯に御座候。

工場の縦覽を謝す

昨日は突然參上御繁務中を妨げ致し、恐縮仕候。其

腹稿 腹心 副書 覆版 腹線 腹蔵 腹含 腹覆 腹不 腹附
言潔 輪膺 む敗 取 藏 線 心 書 版 線 藏 含 覆 不 附

實業書翰用語

不耽 脹 服 復 服 覆 輻 復 復 服 袂
幸 顧 用 命 務 職 湊 數 職 從 紗

滞在中の厚誼を謝す

際には新進の機械拜見仕且御親切なる御説明を承り
御蔭を以て新智識を得候段厚く御禮申上候。何れ其
内參上可仕候得共、不取敢書中を以て御禮申上候。

此程貴地滞在中は一方ならざる御懇情を辱し、
御庇蔭を以て商用萬端都合よく相運び候段厚く御禮
申上候。道中無事昨夜歸宅仕候間憚り乍ら御休念被
下度、先は不取敢御禮迄、如斯に御座候。

挨拶 滞在中の厚誼を謝す

踏ふみ 附つ 振舞ふるまひ 部ぶ 觸ふ 不ふ 腐ふ 部ぶ 扶たす 附つ 誣し 蹂ふ
 張は 配ばい 圖ず 擔たん 進しん 擾じょう 散さん 彩さい 限げん 業ぎょう 起き 解かい
 噴ふん 奮ふん 紛ふん 忿ふん 分ぶん 分ぶん 紛ふん 分ぶん 紛ふん 奮ふん 紛ふん 分ぶん
 飯はん 發はつ 紘こう 怒ど 柝せき 掌しょう 失しつ 際さい 碎さい 激げき 議ぎ 割かつ
 價けん 文ぶん 無む 故こ 震ふ 無む 振ふ 不ふ 無む 賦ふ 殖しょく 不ふ
 慨がい 華け 禮れい 郷きょう 聊りょう 合あひ 埒らち 頼らい 興きょう 不ふ

實業書翰用語

原價騰貴に付指直の注文を斷る

謝絶 原價騰貴に付指直の注文を斷る
 て何品何程御注文に接し候處、折悪く該品四五日前
 悉皆出拂ひ手許品切に付、他の同業者を夫々相尋ね
 候得共一向見當不申、折角の御注文には候得共、右
 の次第にて只今の處急速御間に合ひ兼候間、不惡御
 承引被下度候。尤も來る何日頃には後荷到着の筈に
 候へば、其節は御引立の程願上候。先は右迄。

毎度御愛顧に預り難有奉謝候。借一昨何日附を
 以て御用被仰付候何品の義は、製造地の勞銀騰貴と

踏ふみ 分ぶん 奮ふん 分ぶん 奮ふん 紛ふん 分ぶん 文ぶん 分ぶん 分ぶん 奮ふん 分ぶん
 張は 配ばい 圖ず 擔たん 進しん 擾じょう 散さん 彩さい 限げん 業ぎょう 起き 解かい
 噴ふん 奮ふん 紛ふん 忿ふん 分ぶん 分ぶん 紛ふん 分ぶん 紛ふん 奮ふん 紛ふん 分ぶん
 飯はん 發はつ 紘こう 怒ど 柝せき 掌しょう 失しつ 際さい 碎さい 激げき 議ぎ 割かつ

實業書翰用語

取引申込の謝絶

生産力の減少とにより、原價に非常の暴騰を來し、
 從來何程位にありたる値段も現今は何程の高直に相
 成候始末にて、御指直とは大分の懸隔有之、折角の
 御厚意に背き候事誠に不本意の至には候得共、今回
 の處は御辭退致すの外無之、尤も前記何程の割にて
 宜敷御座候は、直に發荷可仕候。何卒前記の事情、
 御酌取り不惡御承引被下度候。

拜復。去何日附の御狀拜承、當店發賣何品特約販賣

謝絶 取引申込の謝絶

弊平平並啤弊平奮分分分分
 風坦身並行睨害易勵離別泌
 併閉閉閉平平分分忿分
 吞塞鎖口均穩裂量適秩
 平々凡々

實業書翰用語

謝絶 加盟申込の謝絶

方の義に付御相談被下、御厚情奉謝候。實は貴
 地方へも手廣く販賣致度希望にて、當方より進みて
 も御取引相願度心組に候も、當節該品遽に需要を増
 し、從來の御得意先へ對しても、漸く御注文の三分
 の一乃至半額を供給致居候様なる仕末にて、今日の
 處到底他様よりの御注文相引受候餘地無之、乍遺憾
 御辭退申上候次第に付不惡御推恕被下度願上候。先
 は貴酬迄斯の如くに御座候。

加盟申込の謝絶

減縁紹別蔑警別下勞辟米聘
 (耗) 顧ら 段ん 視し 見けん 宴えん 手た 頭第一 易 大 廩 間
 便謙經へ別べ別べ別べ隔へ露へ僻へ並へ平へ
 益遜て途と條で懇こん 儀きつ 歴れき 遠えん 列ら 瘴

實業書翰用語

謝絶 手形引受謝絶

手形引受謝絶

今般何々株式會社御設立の趣を以て加入候様御勸
 誘難有奉謝候。拙者も該事業の有望なるは堅く
 信じ居候へば、進みても御加入願度存念に候へ共、
 御承知の如く近來諸種の事業に着手致居り、隨て
 何分融通上都合悪く候間、折角の御勸誘御斷り申上
 候は心苦しき儀ながら、前陳の次第故不惡御承引被
 下度候。何れ拜鳳萬縷可申上候得共、不取敢貴答迄

只今御呈示相成候何月何日何地何某振出當店宛、一

辨返 變變 辨辨 騙騙 辯辯 便便 變變 變變
 駭駭 納納 動動 則則 辯舌(説) 變心 償償 取取 護護 宜宜 革革 化化
 邊邊 偏偏 編編 貶貶 變變 編成(制) 返信 偏執(頑固) 返濟 遍窟 變換 辯解

實業書翰用語

謝絶 借入金申出を謝絶す
 覽後何日拂爲替手形額面金何圓は、都合上御引受致兼候間御承引被下度、尤も振出人何某へは當方より其旨申遣し候間、是亦御含み置き被下度候。

借入金申出を謝絶す

芳鑒拜誦 陳者格安の賣物御見當の由にて御融通可申上様御申越被下、直に承諾御用達可申上の處、實は少々見込の向に纏りたる放資を爲し、手許極めて逼迫の折柄に候へば、折角の御依頼に應じ申さざるは甚だ心外に存候得共、事情御賢察、此度は他にて

御融通被下度奉願候。不取敢貴答迄。

借入金の延期申出を謝絶す

豫て御用立申上置候金員御返濟期限猶一ヶ月間猶豫せよとの御狀にて、御事情の程は深く御察し申上候へ共實は外ならぬ貴下の御申出に依り一時他借御融通申上たるものにて、先方に對しては期限通に如何様に致候共返濟せざるべからざる次第、殊に目下仕入時季に際し資金の必要に迫り居候場合なれば、猶豫御申出御斷り申上候は、心苦く候へ共、豫定の支

謝絶 借入金の延期申出を謝絶す

放方 法拵 補補 辯勉 便便 辨辨 偏偏 辨辨
 逸位 案案 印印 遺遺 論論 勵勵 利利 別別 物物 舞舞
 實業書翰用語
 貿包 方防 焙焙 遍辨 辨辨 偏偏 邊邊
 易圍 案案 過過 爐爐 歷歷 理理 明明 辯辯 幅幅

實業書翰用語

望遠鏡 報思 崩潰 包括 包含 暴漢 俸給 暴逆 望見 芳向 暴行 妨害 翰書 傍觀 拋棄 忘却 防禦 冒險 妄言 奉公 彷徨

實業書翰用語

謝絶 招待を謝絶す

拂方に困窮候間、是非御約定通り御返濟相願ふの外無之候間、不悪思召被下度、先は貴答迄。

招待を謝絶す

豫て御増築中の工場御落成の趣、大賀此事に候。右開業式に付、小生にも臨席可致様御丁寧なる御招状に預り辱く、當日は是非共出席可仕心組の處、遽に九州地方へ旅行致候事に相成、甚だ遺憾乍ら其意に任ず候間、不悪御承引被下度願上候。

會合を謝絶す

何々の件に付、明日の集會に列席の義承諾致置候處、本日俄に餘儀無き事故出來致し、乍遺憾欠席仕候間、可然御披露被下度、此段申進候也。

面會を謝絶す

御營業上の義に付、御用向有之、今夕御來訪の由、御報に預り候處、生憎只今より何支店に出張仕今夕は歸宅仕兼候に付、明朝御來車被下度、此段申進仕候。

絶謝 會合を謝絶す 面會を謝絶す

報法 保方 方方 豊衰 報捧 芳方 報方 報知 則全 正針 饒賞 酬持 志策 國 放 彪 防 紡 法 奉 褒 幫 傍 放 放 豊 逐 大 戰 績 制 職 狀 助 助 若 無 人

實業書翰用語

呪(禁厭) 眞面目 不味 轉貸 瞬く 襜(衣服の) 待構 未期 眞先 熾地 眞寸 眞平 的末 眞抹 眞區 間違 斑 跨夫 交 丈夫 渡 派直 殺向 々々

實業書翰用語

慶弔 出品の受賞を祝す

し候爲、無上の好評を博せられ候のみならず、審査の結果金牌を御受領被成候由新聞紙上にて承知致候素より卓越せる御伎倆と不撓の御熱心とに對する當然の表彰とは乍申、誠に御一門の御名譽のみならず、縣下の何業に大聲價を加へ候事、畢竟貴殿の恩澤に有之、此名譽に勵されて當地方の産業更に振起致候事必然と被存、大慶之に過ぎず候。何卒此上益々御奮發國家の爲に御勵精相成様希望に不堪候。先は受賞の御祝詞申上度如斯に御座候。

惑す 問合 問合 招拔 磨滅 迷ふ 廻遠(迂遠) 満期 慢心 漫然 眞中(中央) 潮 眼 免 眞似 疎實 忠實 稀(罕) 蔓延 満載 慢性 満着 萬能

實業書翰用語

商業會議所議員の當選を祝す

今回商業會議所議員選舉執行に付、貴兄は正義派の推撰難く御出馬相成、遂に最高點を以て御當撰の起抹賀に不堪候。由來撰舉の事たる情弊百出して至難の業なるに加へ、今回は競争一層激烈なりしにも關らず、此名譽ある結果を得申候は、貴兄の崇高なる御人格が一般人士に認識せられたるに因るものと深く敬服仕候。實に貴兄の御當撰は豫て當市商工業者の冀望にして、今後の商工界は貴兄の御活動慶弔 商業會議所議員の當選を祝す

漫評 漫遊

萬福

見合 見掛 見込 砌込 操塵 微塵 懲戒 未曾有 猥(妄)に

磨方 味方 未決 未濟 未熟 未遂 未然 晦日 導

實業書翰用語

慶弔 就任を祝す

に依りて面目の一新を來すべきは勿論、一層の光輝を發する事と篤く信じ申候。時下不順の折柄折角御自愛遊ばさるべく、先は御當撰の祝詞申上候。

就任を祝す

今回貴社株主大多數の御推撰に依り、社長の要職に御就任被遊候趣大賀此事に存候。豫て斯業に付ては御造詣深き貴下に候へば、御就任後は經營改善の見るべきもの尠からず、何業の上に一光彩を添へ候期近きにある事と奉存候。先は不取敢以書中

亂(案擾)る 満(盈、充)つ 密會 密計 密接 密封 未定 漲(港) 未納 見映(見榮) 未拂

實業書翰用語

密議 密告 密談 見積書 認む 盛 醜し 實(稔)る 求發 見晴眺望

御就任の御祝詞申上度 如斯に御座候。

洋行を祝す

豫て御尊有之候歐米御渡航の義、愈來る何日御出發相成り候由、嗚々御多忙の御事と奉存候。從來我が實業家の渡航致候もの其數決して尠からざれども、實際資力あり經驗あるものは極めて僅少にて遺憾に存居候へば、貴家の如き御人物の渡航は我が實業界の爲め最も慶賀すべき處に有之候。殊に此度は商工業各方面の御視察にて、期間も三年と承り申

慶弔 洋行を祝す

無心 無席(筵) 無常 無盾 無地 無殘 無作法 無奇 無効 無二 無限 無碍
 無神經 無寧 無推 無情 無益 無視 無發 無汚 無向 無婿(望) 無夢 無幻 無稽

實業書翰用語

度用 歸朝を祝す

先年來商工業御視察の爲歐米各地御漫遊中に候處、
 長途の御旅行何の御障も無之御歸朝の趣大慶至極
 に奉存候。不存事として御出迎へも不仕失禮の段は
 偏に御宥免被下度候。戰後國力の發展に伴ひ、商工
 業改善の必要は焦眉の急に候折柄、親く泰西新文明
 の實況を御視察被成候貴下の御歸朝は、我が實業界
 の爲に頗る意を強うするに足るものと存じ、欣喜の
 情に不堪候。何れ拜芝の上御清談相願可申候得共、
 不取敢書中を以て御祝詞申上候。

見舞 未明 土産 冥加 名代(代理) 冥利 身寄(親縁)
 無窮 無期 無意識 無言 無垢 無疵
 見舞 未滿 身許(素性) 未練 妙齡 妙味 苗字 雅字

實業書翰用語

度用 歸朝を祝す

歸朝を祝す

候。されば前途尙遙に御責任も重大に御座候へば、
 何卒御自愛專一に被遊、十二分に御目的を遂げられ
 目出度御歸朝の上、我實業界の福祉を御企圖相成り
 候様願上候。就て此品餘り粗末には候得共、聊御
 發途の御祝迄に進呈仕候間、御笑留被下候は、本懐
 之に過ぎず候。何れ御出發當日は横濱頭迄御見送
 仕る存意に候間其節拜顔可仕候。先は右御祝詞申
 述度斯の如くに御座候。

實業書翰用語

無^む盡^{じん}語^ご 無^む盡^{じん}藏^{ざう}
 無^む數^{すう} 息^{そく}子^こ
 六^むヶ^く數^{すう}(難^{なん}く)
 無^む雙^{さう} 無^む造^{ぞう}作^{さく}
 無^む駄^だ冗^{じゆ}(
 無^む體^{たい}
 贅^{ぜい}口^{こう} 徒^た費^ひ
 無^む斷^{だん} 無^む茶^{ちや}苦^く茶^{ちや}
 睡^{すい}し 胸^{きゆう}騒^{そう}
 無^む手^て法^{ぽう}(無^む鐵^{てつ}砲^{ぱう})
 旨^ち 棟^{どう}
 無^む念^{ねん} 無^む能^{のう}
 無^む比^ひ 宜^い

慶弔 取引先店主の死去を弔ふ

取引先店主の死去を弔ふ

貴店御主人様豫て御病氣御療養中の處、藥石其効な
 く昨朝遂に御永眠被遊候趣、御計音に接し驚愕の
 至に御座候。御家内皆々様御愁傷の程奉、恐察候。
 御存生中は別して御懇親に相願ひ何かと御心添に預
 り、過般關西地方へ御旅行の砌に、御立寄被下、至
 極御健康に御見受申、御病氣の事も一向存不申、御
 見舞も失禮に打過候段恐縮の至に奉、存候。御命
 數是非無き御事とは乍申、誠に以て御不幸の至に御

實業書翰用語

無^む法^{ぽう} 無^む謀^{ぼう}
 無^む逆^{ぎやく} 無^む諒^{りやう}
 無^む暗^{あん} 無^む群^{ぐん}(叢^{そう})
 無^む理^り 無^む感^{かん}
 無^む量^{りやう} 無^む聊^{りやう}
 無^む類^{るい} 無^む群^{ぐん}(叢^{そう})
 無^む論^{ろん} 無^む感^{かん}
 目^め當^{あて}(目^め的^{てき})
 名^{めい}案^{あん} 名^{めい}姪^{めい}家^か
 明^{めい}確^{かく} 銘^{めい}肝^{かん}
 名^{めい}義^ぎ 明^{めい}言^{げん}

座候。乍去餘りに御悲嘆に被打過皆々様御健康を害
 はせられ候様の事有之ては、却て御供養に相成申間
 敷候間、御令息早速御家督御相續の上御家業御精勵
 の義專一に奉、存上候。就て甚だ薄儀には候得共
 香華料として爲替券一葉封中仕候間、御靈前へ御供
 へ被下度、乍畧儀書面を以て御弔詞申上候。

事業の失敗を慰む

承り候へば多年専心御計畫の何事業、御苦心水泡
 に歸し全然御失敗に了り候由、御遺憾の程恐、察奉

慶弔 事業の失敗を慰む

名名明酷明名迷名名鳴明冥
聞物白酏斷聲信勝匠謝察護

名名冥米命明命名名盟名明
簿分福突中嘶數狀稱主刺細

實業書翰用語

慶弔

事業の失敗を慰む

り候。然し世俗にも七轉び八起きとか、失敗は成功の母とか申し候へば、今回の挫折に決して御落膽なく、一進歩と思召して益々御奮勵。是非御本意を達せられ候様希望に不堪候。世の中には貴下の此御事業を嫉妬する者ありて、兎角の誹謗を加へ候爲斯かる御不幸に陥られし事と存候得共、至誠天に通ずと申す如く、誠實を以て押し通され候時は、最後の勝利を占め給ふ事難からざるべくと存候。何れ近日拜趨御高説御伺ひ可申候得共、取り敢へず愚見一應御聽きに達し置候。

滅滅召目目盲目命名名冥名
亡切微標障指人利令密目望

滅滅鍍珍召目廻惠迷明盟命
法相金し使覚(巡)恤惑瞭約脈

實業書翰用語

寒中見舞

嚴寒凌ぎ難く候處、御尊家皆々様御揃ひ益々御勇健に被爲在候由、大慶至極に奉存候。降て弊店儀毎々格別の御眷顧を蒙り、御蔭を以て日に増し繁盛に起き候段難有仕合に奉存候。尙此上とも不相變御引立の程偏に願ひ上げ奉り候。就ては何品寒中御舞の印迄に差上候間御笑納被下度候。尙折角時御厭ひ御攝養の程奉禱候。

慶弔

寒中見舞

實業書翰用語

滅^{めつ}烈^{れつ} 娶^{めと}る 眩^め暈^{まひ} 面^{めん}調^{てう} 免^{めん}許^{きょ} 縮^{しゆく}撤^{てつ}布^ふ縮^{しゆく} 免^{めん}職^{しやく} 免^{めん}除^{じよ} 面^{めん}談^{だん} 面^{めん}責^{せき} 面^{めん}體^{たい} 面^{めん}皮^ひ

目^め出^で度^{たく} 目^め抜^{はき} 莫^{めい}大^{たい}小^{せう} 面^{めん}會^{かい} 面^{めん}晤^ご 面^{めん}識^{しき} 面^{めん}狀^{じやう} 免^{めん}積^{せき} 免^{めん}租^そ 免^{めん}黜^{ちゆう} 面^{めん}倒^{たう} 面^{めん}貌^{ぼう}

實業書翰川語

綿^{めん}密^{みつ} 設^{せつ}く 申^{まを}受^{しう}く 孟^{まう}春^{しゆん} 詣^きづ 毛^{まう}頭^{とう} 蒙^{まう}味^{まい} 猛^{まう}烈^{れつ} 筆^{まき}碌^{ろく} 燃^もえろ 擬^ぎ擬^ぎ

儲^{まう}ける 妄^{まう}執^{しやく} 猛^{まう}省^{しやう} 毛^{まう}鹿^{らく} 妄^{まう}念^{ねん} 網^{まう}羅^ら 朦^{まう}朧^{らう} 崩^{まう}黄^{わう} 挽^{まひ}ぐ 腕^{わん}く

面^{めん}目^{もく}

慶弔 異中見舞

暑中見舞

土^ど用^{よう}中^{ちゆう}とは申^{まを}し乍^{しか}ら酷^{こく}暑^{しよ}凌^{りやう}ぎ難^{がた}く候^{かう}處^{ちよ}、御^ご全^{ぜん}家^か御^ご一^{いつ}同^{どう}如^{じゆ}何^{いか}御^ご消^{しゆ}光^{くわう}被^ひ遊^{いう}候^{かう}哉^や、伺^{かひ}上^{じやう}候^{かう}、次^{つぎ}に弊^{へい}店^{てん}儀^ぎ毎^{まい}々^{じやく}御^ご引^ひ立^{たて}を蒙^{かうむ}り、御^ご蔭^{かげ}を以^{もつ}て營^{えい}業^{ぎやう}隆^{りやう}盛^{せい}に越^{おこ}さ候^{かう}段^{だん}厚^{あつ}く御^ご禮^{らい}申^{まを}上^{じやう}候^{かう}。尙^{なほ}不^ふ相^{あひ}變^{かは}續^{ぞく}々^{じやく}御^ご用^{よう}被^ひ仰^{おほ}附^つ度^た願^がひ奉^{たて}り候^{かう}。從^{したが}つて甚^{はなは}だ些^せ少^{せう}には候^{かう}得^え共^{とも}何^{なに}品^{ひん}御^ご左^さ右^う御^ご伺^{かひ}の驗^{けん}迄^{まで}に進^{しん}呈^{てい}仕^し候^{かう}間^{かん}、御^ご叱^{しつ}留^{りゆう}被^ひ下^{くだ}候^{かう}は、本^{ほん}懷^{くわい}の至^{いた}り御^ご座^ざ候^{かう}。先^{まづ}は暑^{しよ}中^{ちゆう}御^ご見^み舞^{まひ}迄^{まで}如^{ごと}斯^とに御^ご座^ざ候^{かう}。

類焼見舞

今朝^{こんてう}の新聞^{しんぶん}紙^しに依^よれば、昨^{さく}曉^{きやう}錦^{きん}地^ちに大^{だい}火^{くわ}災^{さい}有^あ之^し、貴^き店^{てん}も御^ご類^{るい}焼^{せう}の厄^{やく}に被^か爲^せ罹^ら候^{かう}由^{よし}驚^き愕^{がく}仕^し候^{かう}。御^ご一^{いつ}同^{どう}様^{さま}方^{かた}御^ご別^{べつ}條^{じょう}無^なく御^ご立^た退^{たい}さ相^あ成^{じやう}候^{かう}哉^や、又^{また}御^ご混^{こん}雜^{ざつ}も一^{いつ}方^{かた}ならす御^ご損^{そん}害^{がい}高^{たか}も定^{さだ}めて莫^ぼ大^{たい}の事^{こと}と恐^{きよう}察^{さつ}仕^しり、御^ご氣^きの毒^{どく}千萬^{せんま}に奉^{ほう}存^{ぞん}上^{じやう}候^{かう}。早^{さつ}速^{そく}參^{さん}上^{じやう}可^か仕^し筈^{はず}に候^{かう}得^え共^{とも}遠^{えん}方^{ぽう}の事^{こと}とて其^{その}意^いを得^えず候^{かう}儘^{まま}、略^{りやく}儀^ぎ乍^{しか}ら書^{しよ}狀^{じやう}を以^{もつ}て御^ご伺^{かひ}申^{まを}上^{じやう}候^{かう}。扱^{さて}甚^{はな}だ輕^{けい}少^{せう}には候^{かう}へ共^{とも}別^{べつ}包^{ぱう}の品^{ひん}御^ご見^み舞^{まひ}の印^{しん}迄^{まで}に差^さ上^{じやう}候^{かう}間^{かん}御^ご受^{じゆ}納^{なつ}被^ひ下^{くだ}度^た候^{かう}。

慶弔 類焼見舞

實業書翰用語

催合あひ 摸様もよう
 紡紡 寄より 催もよほ す
 最寄もよほ 脆もろ 貫もろ 貫もろ 貫もろ
 諸門もろ 諸門もろ 諸門もろ 諸門もろ
 門限もんげん 日ひ 紋もん 日ひ
 約やく 定じやう 燒や 族ぞく 約やく 定じやう
 喧やかまし 夜よ 業げふ 躍やく 進しん
 門もん 鑑かん 悶もん 着やく

藥石やくせき 厄やく 難なん 役目やくめ 職責しやくせき
 火傷やけど 屋敷やしき 耶や 養やしな 優よし 役目やくめ 職責しやくせき
 野や 心しん 瘦やせ 瘡かさ 休やすみ 憩やすみ
 易やす 心しん 瘦やせ 瘡かさ 休やすみ 憩やすみ
 矢や 介かい 家や 賃ちん 躍やく 起き 履はき 備ひ 張はり
 宿屋やどや 旅館りょくかん 矢張やはり 野や 卑ひ 鄙ひ
 野や 靈れい 野や 卑ひ 鄙ひ 疾やまひ 病びやう
 破やぶ 敗ばい 疾やまひ 病びやう

實業書翰用語

慶弔 病氣見舞

處龜裂を生じ、拙宅の奥藏などは片面殆ど破却致候
 様なる次第にて、怪我人も随分有之模様にて御座候。
 然し拙宅は一同無難に御座候へば憚り乍ら御安心被
 下度候。兎に角貴地の模様心懸りに候間、御様子御
 報導被下度此段御伺ひ申上候。

病氣見舞

此頃は兎角不順に候候處、貴下には御持病の脚氣御
 再發被致候由、嘸かし御難儀の御事と奉推察候。
 目今の不時候にては、壯健の者にては、何となく氣鬱

を感じ、大に健康を害し候事故、御病體には一層御
 障りも甚だしかるべく、精々御自愛祈り奉り候。
 粗菓一箱御見舞の驗迄に呈進仕候間御受納被下度、
 先は畧儀ながら書中を以て御見舞申上候。

盜難見舞

傳承仕り候得ば、昨夜盜難に御罹り相成候由事實に
 有之候哉、又紛失物は何々に候哉、御家族中幸に
 御怪我は無御座候哉、盜賊の踪跡は未だ相知れず候
 哉、不取敢自分罷出で御見舞可申上筈に候處、生憎

慶弔 盜難見舞

由々敷 輪入達 輪達 譲渡 談言 行衛 縁 愉快 結納 遺言 優劣 猶豫

由々 勞々 油断 輪送 輪出 行末(前途) 荷(着物の) 歪む 所 由 唯 遊覽

實業書翰用語

仰せ附けられ度、又御行員御派遣相成候へば、及ばす乍ら小生御便宜御計り可申候。先は取り敢へず右貴答まで斯の如くに御座候。

株券賣渡方依頼に付委任状送附

過日御依頼申上置候何會社株式の義、適當の希望者御見當りの由にて御報知被下、種々御配慮の段厚く御禮申上候。價格の義は御申越の通り壹株金何圓の割にて異存無之候には、別紙委任状と共に株券何個持たせ遣はし候間、御入手の上萬事然るべく御取計

雜

株券賣渡方依頼に付委任状送附

容様 養子 容姿 容儀 要害 容味 容易 緩弛 搖

容積 養子 容成 容體 用心(要慎) 容概(用捨) 要塞 陽氣 溶解 養育

忽(忽諸) 緩(緩やか)

實業書翰用語

工事見積書送附

去る何日附の御狀を以て御問合せ有之候二個ロール附活版印刷機は、封入見積書の通り必要小道具一切附屬、御注文の日より向ふ十五日以内御社工場据附渡し、御注文と同時に代金の二割、殘金は試運轉の結果良好なるを御認めの上御支拂を受くべき條件にて、御注文に應じ申すべく候間、是非御注文仰せ付けられ度願上候。先は不取敢貴答まで。

雜

工事見積書送附

理り利り里り律り立り立り立り立り利り理り理り履り戮り
非ひ發り程で令れ腹が錐る案ん息き性き財り行り力り

實業書翰用語

理り離り利り立り立り立り立り律り理り利り罹り利り
不盡 叛ん鈍ん論ん法ん派ん憲ん義ん想ん潤ん災ん己ん

領り良り兩り凌り流り龍り流り隆り流り理り略り離り
事好 替(兩換) 駕が離り 頭蛇尾 滂い盛い言い由い取い別い

聊り諒り料り了り遠り留り流り流り流り流り略り略り
爾察 簡解 遠ん別ん動ん暢ん行ん義ん筆ん義ん

督り旅り旅り寥り量り良り兩り瞭り凌り領り料り領り
力寓 館々 目否 得ん然ん辱ん承ん哨ん袖ん

利り旅り利り慮り綾り領り良り僚り良り糧り領り領り
率り裝り慾り外り羅り分り能り屬り辰り食り掌り收り

類り類り縲り累り類り 隣り吝り臨り機り輪り履り
例り別り紐り進り似り 接り吝り終り機り應り英り歴り

累り累り累り類り類り 凜り臨り臨り臨り格り輪り
世卵 代推 焼り 冽り席り場り檢り氣り廓り

餘り擇り餘り四方山話 嫁(媳) 蘇(生) 輿(望) 豫(報) 豫(備) 餘(波) 徹夜(通夜) 世繼(世嗣)

實業書翰用語

類り裕 寄合(集會) 喜(欣悦) 縲(糸を) 豫(命) 餘(命) 嘉(命) 餘(程) 豫(防) 餘(分) 餘(白) 餘(念) 豫(定)

來り來り來り雷り來り來り來り來り 弱(齒) 與(齒) 宜(數)
臨り論り訪り同り談り會り意り

來り磊り雷り來り來り來り來り 無(世渡) 夜(處世) 萬(半)
歷り落り名り寶り朝り航り駕り

濫り亂り亂り欄り羅り螺り羅り落り落り落り落り絡り
造り心り雜り干り列り旋り紗り魄り選り手り着り釋り

懶り濫り濫り亂り欄り埒り羅り落り落り落り落り落り
惰り製り觴り高下 外 羅針盤 涙り膽り成り掌り札り

陸り陸り利り離り理り理り 濫り爛り洋り濫り亂り
續り揚り器り隔り解り合り 用り熨り燈り費り打り

理り利り力り離り利り理り 濫り亂り亂り亂り亂り
窟り喰り量り策り害り會り 縲り脈り暴り筆り入り

路^ろ路^ろ路^ろ路^ろ露^ろ碌^ろ祿^ろ漉^ろ勞^{らう}樓^{ろう}老^{らう}老^{らう}
傍^{ぼう}頭^{とう}程^{てい}次^じ骨^{こつ}々々 過^か力^{りき}門^{もん}舖^ぽ心^{しん}

露^ろ管^{かん}露^ろ露^ろ露^ろ路^ろ露^ろ輓^{わん}路^ろ老^{らう}籠^{ろう}羅^ら涙^{なみだ}
命^{めい}鈍^{どん}店^{てん}出^{しゅつ}地^ち見^{けん}鱸^ろ銀^{ぎん}練^{れん}絡^{らく}馬^ば字^じ費^ひ

和^わ猥^{わい}猥^{わい} 論^{ろん}論^{ろん}論^{ろん}論^{ろん}論^{ろん}論^{ろん}論^{ろん}路^ろ
解^{かい}衰^{さい}雜^{ざつ} 辨^{べん}駁^{ばく}難^{なん}說^{せつ}旨^し究^{きう}外^{がい}用^{よう}

我^{わが}賄^{わい}矮^{わい} 論^{ろん}論^{ろん}論^{ろん}論^{ろん}論^{ろん}論^{ろん}論^{ろん}臆^{おそ}
儘^ま賂^ろ少^{せう} 錄^{ろく}典^{てん}破^ぱ點^{てん}證^{てい}決^{けつ}及^き列^{れつ}

和^わ話^わ蟠^{わん}忘^{わす}僅^{ひん}和^わ禍^{わざ}和^わ譯^{やく}梓^し傍^{ぼう}脇^{わき}
睦^{むつ}頭^{とう}り 順^{じゆん}順^{じゆん}順^{じゆん}合^{がう}合^{がう}仔^し細^{さい}理^り由^{ゆう} 見^{けん}

割^{わり}詐^わ割^{わり}早^{そう}煩^{わん}和^わ態^{たい}業^{わざ}惑^{わく}辨^わ和^わ
合^{あひ}賦^ふ稻^{いな}ひ 親^{しん}々々 溺^で溺^でふ 議^ぎ

實用書翰要語終

腕^{わん}惡^{わる}惡^{わる}割^{わり}割^{わり}
白^{はく}漢^{わん}の 慧^{えい} 辰^{しん} 濟^{せい}

腕^{わん}破^{われ}惡^{わる}惡^{わる}割^{わり}
力^{りき}目^め巧^{たくみ}口^{くち}引^ひ

例^{れい}令^{れい}零^{れい}令^{れい}冷^{れい}冷^{れい}例^{れい}例^{れい} 纒^り流^り纒^り
證^{てい}旨^し碎^{さい}兄^{けい}遇^う却^{きやく}規^き外^{がい} 々々 布^ふ述^{じゆつ}

冷^{れい}緜^{めん}零^{れい}靈^{れい}令^{れい}禮^{れい}禮^{れい}冷^{れい} 流^り瑠^り璃^り色^{しき}
笑^{せう}書^{しよ}細^{さい}驗^{けん}聞^{もん}遇^う義^ぎ氣^き 浪^{らう} 留^{りう}守^{しゆ}(不在)

歷^{れき}歷^{れき}歷^{れき}恰^{ちやく}令^{れい}令^{れい}例^{れい}冷^{れい}令^{れい}勵^{れい}令^{れい}禮^{れい}
遊^{ゆう}世^{せい}史^し悒^{いつ}名^{めい}聞^{もん}年^{ねん}淡^{たん}息^{しき}精^{せい}孃^{ちやう}讓^{じやう}

烈^{れつ}歷^{れき}曆^{れき}玲^{れい}零^{れい}靈^{れい}冷^{れい}禮^{れい}緜^{めん}冷^{れい}靈^{れい}禮^{れい}
火^か訪^{ほう}日^{じつ}確^{かく}落^{らく}妙^{めう}評^{へい}典^{てん}屬^{じやく}靜^{じやう}瑞^{ずい}狀^{じやう}

聯^{れん}連^{れん}廉^{れん}聯^{れん}聯^{れん}連^{れん}練^{れん}連^{れん}聯^{れん}廉^{れん}劣^{れつ}列^{れつ}
邦^{ぱう}判^{ぱん}耻^ち隊^{たい}想^{じやう}署^{しよ}習^{じやく}鎖^さ結^{けつ}價^げ等^{とう}舉^{きよ}

練^{れん}憐^{れん}連^{れん}連^{れん}連^{れん}連^{れん}連^{れん}憐^{れん}憐^{れん}連^{れん}廉^{れん}烈^{れつ}列^{れつ}
磨^ま憫^{めい}敗^{ぱい}帶^{たい}續^{じやく}恤^{じゆつ}察^{さつ} 潔^{けつ}風^{ふう}席^{せき}

勞^{らう}朗^{らう}望^{わう}狠^{へん}老^{らう}陋^{らう}弄^{らう}廊^{らう}紹^{しやう} 聯^{れん}連^{れん}
儘^ま讀^{どく}斷^{たん}籍^{せき}衰^{さい}習^{じやく}言^{げん}下^か 絡^{らく}名^{めい}

狠^{へん}老^{らう}勞^{らう}陋^{らう}老^{らう}老^{らう}老^{らう}樓^{ろう}瀾^{らん} 連^{れん}連^{れん}
狙^そ廢^{はい}働^{どう}態^{たい}成^{せい} 功^{こう}閣^{かく}洩^{せう} 累^{らい}綿^{めん}

實業書翰用語

附録

附録 郵便電信發受心得 郵便の部

郵便電信發受心得

郵便の部

一 郵便物の肩書は國郡市町村番地を記すべし、府縣名は一國にして數府縣に分屬する地方の外記載するに及ばず

郵便局にては概して國名に依り差立方面を定むるに付同一府縣内と雖も國を異にするときは差立の方面亦異なるものあり故

に府縣名の必要なし、尤も一國にして二三の府縣に跨る地方例へば武藏丹波肥前の如きに於ては府縣名を記載する方速達の便あれば此等の場合には成るべく府縣名を記載すべし、三府五港其他市制施行地の如きは國名を要せず例之ば東京大阪横濱名古屋廣島金澤の如きは單に何々市と冠すべし

二 郵便物の表書は國郡市町村等の肩書を成るべく大きく鮮明に記載すべし、番地氏名は小さく書して差支なし

郵便物は送達途中數多の郵便局を経由するものにして各局とも肩書により順次差

立の方面を定むるを以て肩書の不明なるものは取扱者の手数を増し一般に遅延の原因となるべし、字體は成るべく楷書又は丁寧なる行書を用ふべし草書の如きは錯誤を生じ易し

三 差出人受取人共雅號變號を用ふべからず

配達又は還附の際差支あり没書とするの已むを得ざるに至るべし

四 郵便物の羅馬字の表書は成る

附録 郵便電信發受心得 郵便の部

べく日本字も併書すべし

羅馬字表書の郵便物を内國にて配達するには郵便局にて日本字に翻譯して配達するの煩あり隨て内國に配達するものは成るべく宿所氏名を日本字にて併書するを可とす、外國行にても受信人の國名市名等を海外發送の當該郵便局に送附上便利少からず

五 郵便物受取人居住地の所轄郵便局名の知れ居る場合には其表書に「何國何區何町村」と記するを可とす

附 録

郵便電信發受心得 郵便の部

是亦取扱者の手数を省き郵便物の誤送を防ぐの一法とす故に同一人に向ひ日常多數の郵便物を差出す者は受取人の所轄郵便局名を問合置き之を表記するを可とす隨て又日常多數の信書を受取る者は自己の所轄郵便局名を發信者に知らしめ置くこと猶現今種々の方便に依り自己の電話番号を他人に知らしむるに等しき方便を採るときは其便少なからざるべし

六 他人の家に寄寓する者に宛たる郵便物は「何某方」と記載するを可とす

七

他人の家に同居寄留し或は一時宿泊せる者に向て郵便物を發送するには何某方と宛つるに於ては配達に便利あり、殊に其戸主が他に轉居したる如き場合に於て受取者の搜索に便利あり、且又總て郵便物を受取るべき本人は例令同居人寄留人の類たりとも其氏名の標札を門戸に掲げ置く時は甚だ配達に便利なりとす

新聞雜誌其他帶紙類には發受両者の區別を明瞭ならしむべし

帶紙類に受信者發信者名を記載せるもの如きは輕々に看過すれば發信者を受信

八

郵便の封皮及糊に注意すべし

者誤り易きもの往々にしてあり而して郵便局にては僅少の時間を以て迅速に區分遞送の取扱をなすものなれば時として之が爲に發信者に向け配達するが如き錯誤おしとせず、此等は受信者名の下に「行」と記し發信者の下に「ヨリ」と記すが如き注意を以て發受兩者の資格を一目判然たらしむるを要す

郵便物は多數一時に一疊に取集め又方面區分の後把束して一疊に入れ遞送するが故に封皮及び帶紙脆弱なるときは他の堅

附 録

郵便電信發受心得 郵便の部

硬の封紙若くは行箋に觸れ自然に破綻し恰も双物を以て截斷せし状を現すことあり或は折目より切斷することあり惡質の洋紙類即ち藁紙又は木屑製のものに於て殊に然りとす此等の封皮帶紙を用ゆるもの近時稍其數を減すと雖も猶此類を修補し竝に名宛の極めて茫漠たるものを處理する爲め東京局の如きは現に書記一人を専用せり、又歲月を経たるゴム附の封皮は一時唾液にて貼附するも乾燥するに従ひ分離するもの多し、畢竟するに郵便物の苦情中封皮帶紙及糊封の不完全に原因

附 録 郵便電信發受心得 郵便の部

するもの勢少ならざれば發信者は深く之に注意すべし、殊に海外行の郵便物に在ては特に封皮帯紙の堅靱なるを要す、此他封紙に先づ封印を捺し或は封字を書し後に糊着する時は概れ多少の喰違を生ずる爲め甚しきものに在りては郵便局に於て其原因を知らずして配達に際し名宛人に就き内部異状の有無を質し或は發信人に照會して事由を調査するが如き煩雜な來す事あり是亦發信者の注意すべき所也

九 粗大の郵便物には糸類を以て十文字に襷(たすき)を懸くるを

安全とす

粗大なる郵便物の封紙は自然破綻易し故に此類の郵便物を發するには糸類を以て十文字に結束すれば假令封紙の破損に遭遇するも封物の脱出を免るべし、殊に海外行の郵便物に結束すれば遠路の海上を航送するを以て船舶の動搖等により他の郵便物と摩擦し破損するの虞最も多きに付特に本文の注意を要す

一〇 海外行の郵便物は堅靱にして平滑なる封皮を用ひ且つインキにて記載するを安全とす、内

國郵便物の表書と雖も鉛筆其他磨滅し易きものを避くべし

柔軟にして毛立易き日本墨にして記載したる文字は遞送中の摩擦の爲め減損し易し、殊に海外行郵便物の如きは平滑面を有し而も堅靱なる洋紙又は之に類似の封皮を用ゐる特に適宜の紙片を貼附し之に西洋インキを以て表書を記載するを安全とす、内地配達ハ郵便物と雖も鉛筆等にて記載するときは遞送中文字不明に陥り易し

一 米●麥●其他●種子●類●を●差●出●す●と●

附 録 郵便電信發受心得 郵便の部

きは布片を以て包裝すべし

細粉の種子類は包裝に細少の破損あるときは直に脫落分散し且つ自體の混亂に包裝を混亂しければ農産物の種子類又は見本の類は堅質緻密の布片を以て包裝するを要す

一二 蠶卵紙の包裝は薄板紙箱等脆弱破損し易きものを用ゐざるを要す

蠶卵紙を差出さんとするときは必ず郵便局の承認を要し郵便局は包裝堅固あらざれば承認を與へざるにより豫め包裝に注

附録 郵便電信發受心得 郵便の部

意すべし、薄板の箱の如きは差出の際一見堅固なるが如きも遞送中他物に觸れ或は壓迫の爲め破損すること少なからずと知るべし

一三 貴重品を小包郵便物にて差出すときは可成價格表記小包として差出すべし

通常小包郵便亡失破損のときは遞信省より賠償をなすは重量百日に付拾錢の割合なれば物品により大なる損害を蒙ることあり故に貴重品を差出すときは可成價格表記となすを可とす

一四 小包郵便物は其物品の形體性質に應じ適當なる材料を用ゐて包装すべし

包装不完全なるときは遞送途中に於て汚損する憂あるのみならず他の郵便物に損害を及ぼすことあり、又弱質の紙例之は新聞紙類を用ゐて包装するときは容易に破損し爲に宛名不分明に歸し配達を爲し得ざるものなり故に相當の包装をなし是等の損害を避くべし、又海外又は臺灣各地の如き遠距離に達するものは罐詰の如きものも雖も箱上箱に納む等の手當を要

一五 小包郵便物に信書を包入するの嚴禁たることに留意するを要す

小包郵便物に信書を包入したるときは處罰あり、且該郵便物は名宛人に送達せずして差出人に還附するの制規たることを忘るべからず

一六 郵便切手は封筒表面の左上隅に貼附すべし

取扱者の手数を省き郵便物の遅延を防ぐものにして差出人自己の便益となすべし

附録 郵便電信發受心得 郵便の部

概して取扱者の手数を省くは郵便物の速達を期する所以なることを記臆すべし

一七 郵便物の表面には郵便日附印を押捺するに足べき餘白を存すべし

郵便日附印は引受又は到着の日時を證明するものとす、餘白は成るべく表面左上部の切手の下に存するを可とす

一八 急を要する郵便物は郵便函に投入せず郵便局に持參すべし

路傍の郵便函に投入するときは之を郵便局に取集むる迄に若干の時間を要すべし

附録 郵便電信發受心得 郵便の部

ばなり

一九 鐵道停車場附近に住する者其鐵道に依り遞送すべき郵便物を差出し送達を欲するときは停車場に設けある郵便函に投入するを可とす

鐵道停車場内に設けある郵便函に投入したる郵便物は鐵道郵便列車出發の際之を取集郵便局に持戻らず直に郵便列車中に其送達先を區分するに依り普通の郵便函に投入するよりも速達の効あるべし、尤も停車場郵便函は必要に應じ漸次上り

又は下り便を區別し分置すべき筈に付其區別ある所は必ず其方向を指定する郵便函に投入すべし若し反對の方面に達するものを投入するときは一旦不當の方位に持越し更に送り戻さるべからざるを以て却て遲着を生ずべし

二〇 留置小包郵便物の受取期限に後れざる様注意すべし
留置小包郵便物受取期限を怠るときは空しく差出人に還附せられ且つ差出人は還附遞送料を支拂はざるを得ず、又郵便局に於ても其手數尠からず

二二 成るべく郵便受取函を設くべし

早朝又は夜間に郵便の配達を受くるに當り忙はしく起き出で門戸を開くは受取人に於ても煩はしかるべく配達も爲に時間を徒費し他の郵便の配達を遅延するに至るべし故に毎戸必ず受取函を裝置するを可とす

電信の部

二三 電報文は正確に認むべし

電報は専ら迅速を旨とすれば固より文意附録 郵便電信發受心得 電信の部

に注意するの違なく文字の符號に従ひ傳送するを以て、電報賴信紙に音信文の認め方粗漏なるも亦電報に誤謬を生ずる一原因たり、故に マコエ エンシミ スム ソメ ニニ ハ八等の紛はしき文字及數字は最も正確にして一見分明なるやうに認むべし、殊に祕辭を用ゆる場合に於ては一層是等の字に注意せんことを要す

二三 電報文中數字の如きは成るべく再記する方安全なり

電報文は力めて無用の文字を省き簡短に

附録 郵便電信發受心得 電信の部

記載する習ひなれば一字の誤りも是が爲に大なる損害を醸すことあり數字に於て殊に然りさす、然るに此等は傳送上誤りあるも取扱者其誤を發見するの方便乏しければ隨て其誤を傳授し易し故に之を再記すれば假令誤りを防ぎ得ざるも受信者に於て誤りなきことを發見し易し、一五(シツゴ)と再記する如し

二四 受取人の住所は簡明にして配達に差支なきを期し成るべく unnecessaryの文字を省くべし

字數多きは送信を費す時間も亦多く延て

電報の遲着となる故に用事に非ざる部分の字數は成るべく省略するを傾とす、隨て有名なる土地にして錯誤の虞なきものは國名郡名など省くも差支なし、例之ば三府五港を始めとして宇都宮仙臺小倉島取の如し、又東京市の「市」横濱港の「港」如き類は全く不必要とす

二五 發信人の住所は成るべく省略すべし又氏名も成るべく簡單にすべし、或は全く記載せざるも差支なし

日常電報又は郵便の往復頻繁なる者相互

の間にありては其都度住所を知らしむるの必要なかるべし又氏名に代ふるに屋號を以てするも可ならん、或は受信者にして發信者の誰なることを認め得べしと信する場合は全く發信者の氏名を畧するも亦可ならん就中會社名の如きに至りては株式合資合名等の字句を略するも差支なかるべし、電報の速達を望む者は發信者自らも亦是等の注意を怠るべからず

右は傳送文を省略するに必要な注意なりと雖も發信者に報告問合等を爲す場合に於て住所氏名不分明なるときは差支あり

附録 郵便電信發受心得 電信の部

るにより別に欄外又は餘白に之を記載すべし、此分は傳送せざるもの故本字にて記載すべし

二六 電報宛名には著名なる人若くは官名は成るべく簡單にし錯誤のなき限りは省略すべし、發信者亦同じ

例へば遞信大臣何爵何誰と書せず單に遞信大臣とするの類とす

二七 電報宛名には敬稱を省略すべし

電報宛名には往々「殿」又は「閣下」の如き

附 録 郵便電信發受心得 電信の部

敬稱を附記することあるも右は受信人發
信人の間に於て互に宥恕あるものと見做
し一切附記せざるを可とす

二八 和文電報は發信人受信人の
住所氏名を本字にて記載する
きは片假名にて傍訓を附すべし
符號にて傳送するものなれば本字にては
取扱方不便なり、殊に普通の讀方に違ふ
もの又は讀み兼ねるものあれば爲に意外
の誤を生じ甚しきは不達に歸することな
しとせず

二九 電信料に宛てたる切手は枚

數の多からざる様注意し切手は
成るべく頼信紙の表面「切手貼
附の場所」と記したる欄内に貼
附すべし

一錢又は二錢等の小切手を幾枚もなく頼
信紙の表裏に貼附し差出すものあり之が
爲に手数を要するは勿論金額に過不及を
見るこゝ往々ありて、不足の場合には其
二倍を徴收せらるゝ損失あり

三〇 返信料前納電報を受取りた
る者は餘事は差繰り直に返電を
配達人に交附すべし

返信料前納電報の配達を受け長時間配達
人を待たしむるものあり是亦自然電報運
滞の原因を爲す故に受信人は即時に返電
を交附すべし、若し即時に交附し難きに
於ては配達人をば直に還し返電は自己よ
り別に電信局に交附すべし

郵便電信共通の部

三一 書留郵便物若くは小包郵便
物又は電報の配達を受けたる
きは速に其配達證に捺印して集
配人に返附すべし

附 録 郵便電信發受心得 郵便電信共通の部

郵便電信配達人は迅速に其郵便又は電信
を配達すべきものなれば之をして徒に時
間を遅延せしむるときは他の郵便又は電
信の配達に差支を生ずべし、受取人の中
には其配達を受けたる郵便又は電報を披
見したる後始めて配達證を返附するもの
あり是等は時間遅延の原因たるに依り此
の如き所爲なからんことを要す

三二 家屋の番號札は成るべく筆
太に且つ鮮明にして見易き箇所
に掲ぐべし

番號不明の爲め配達人入替の際など無用

附録 郵便 信發受心得 郵便電信共通の部

の時間を費すこと多きが爲めなり

三三 住所人搜索に困難する場合

にありては適宜道しるべの高札を建つる等の工夫を廻すべし

例之ば廣漠なる同番地内に數多の住居ある場所の如きは番數の外に番號を設け且

つ地主又は住居人の注意を以て回り角に

高札の類を設け道しるべを示し、又番號

の錯雜し若くは町名の入組める場所の如

きも均しく回り角に道しるべを掲ぐる等

の工夫あらべし、猶一步を進めていへば

町名の錯雜せる市街地の如きは市町吏員

等の注意を以て各町の始め終りに適宜の方法により、例へば入口の家屋の扉橋に「是より何町何丁目」といふ標札を掲ぐ如き工夫あらんことを望む、是れ獨り郵便電信の配達のみならず一航の交通上裨益する處少ながらざるべし

附録終

刷印日八十月二十年三十四治明
行發日三廿月二十年三十四治明

製複許不

著作者 大畑 徳 太郎

發行者 岡村 庄 兵 衛

發行所 岡村 盛 花 堂

電話下谷一四二〇四
振替東京一九〇六五

印刷者 岡田 鍊 一

印刷所 八 洲 舍

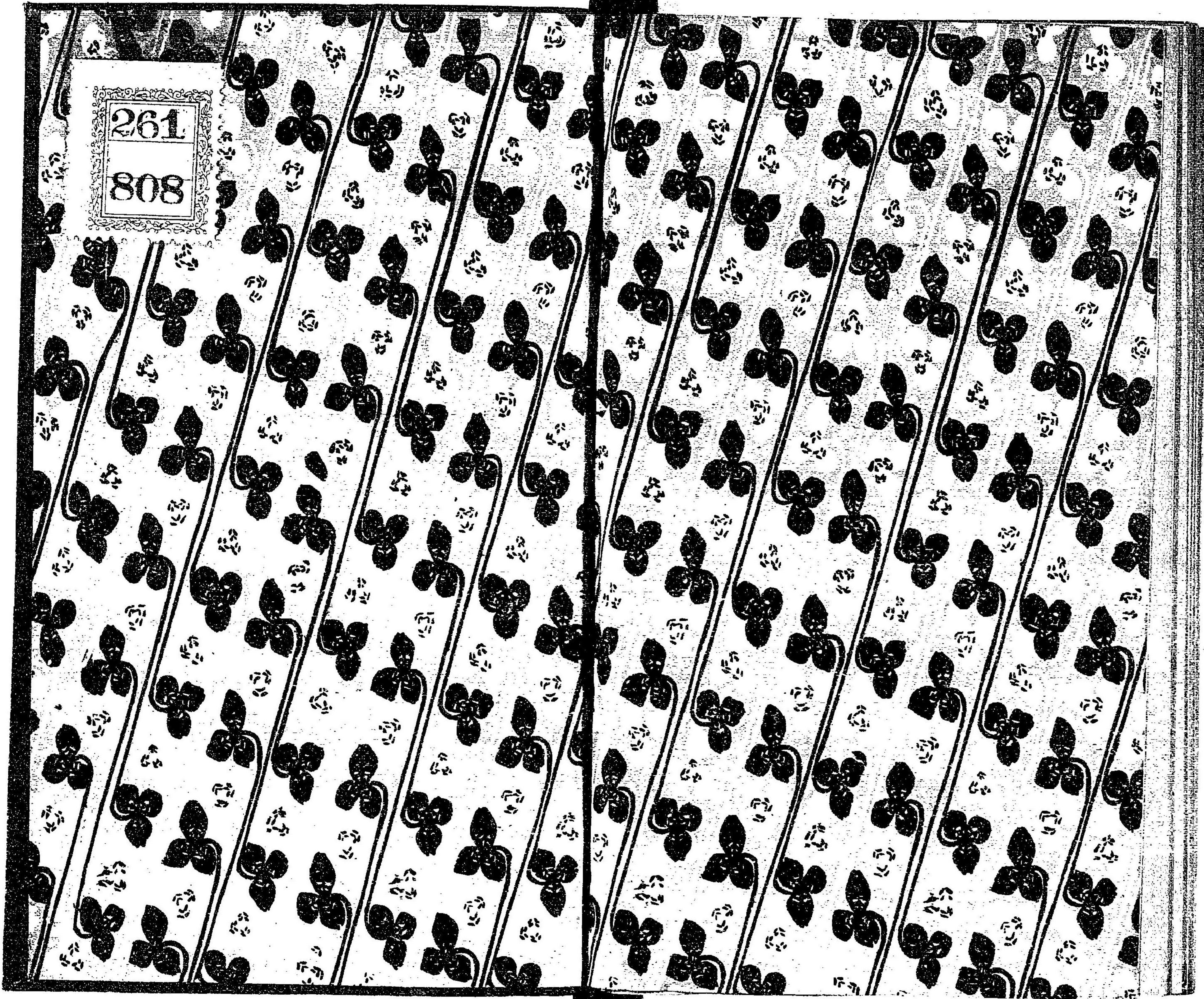
電話新橋二五七八番

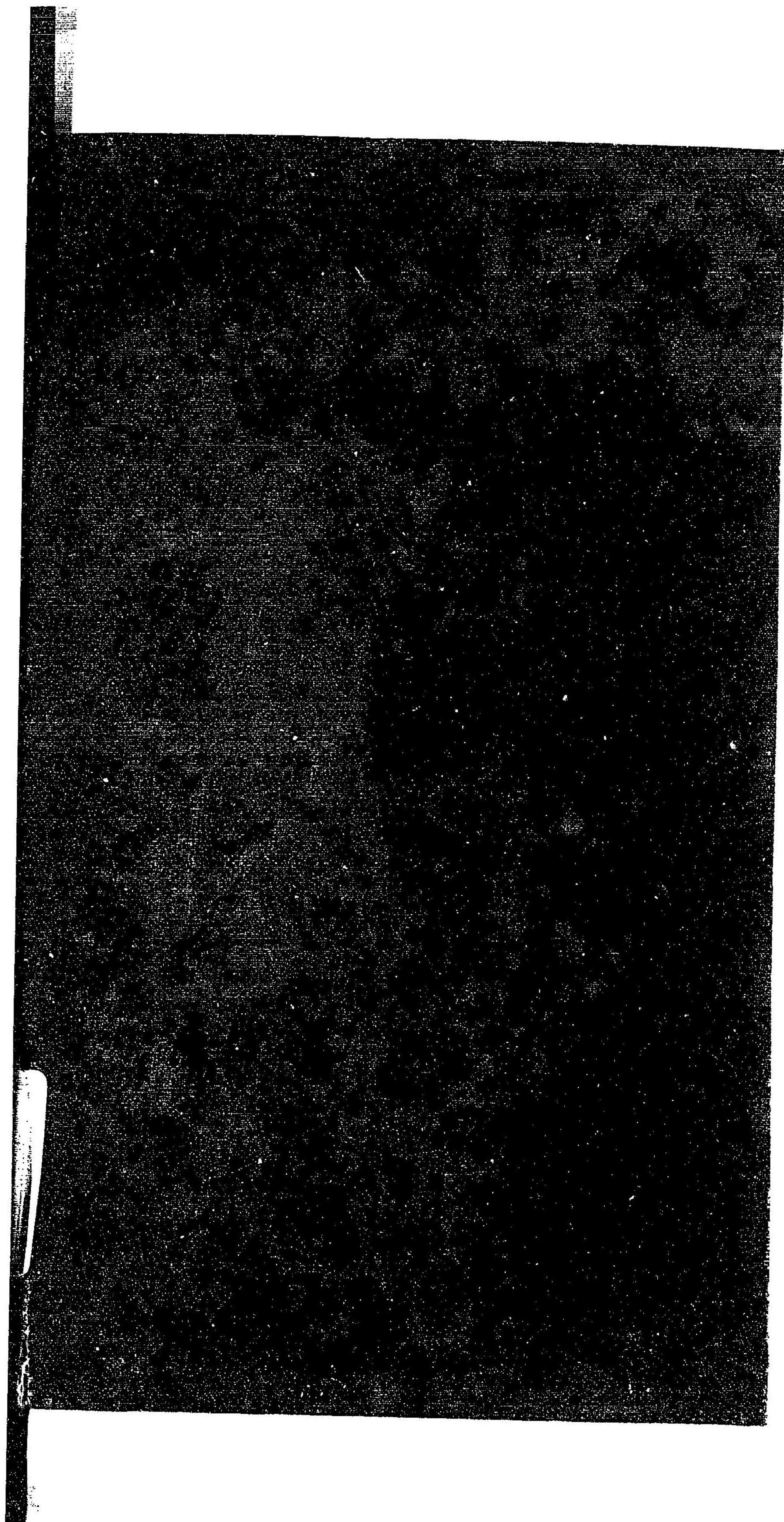
錢六金稅郵◎ 錢十三金價定

(附與輸書業實トツケボ)

261

808





080058-000-3

特62-507

実業書翰 (ポケット)

大畑 匡山 / 著

M43

DAC-4190



